

別小江みこし会の活動視察

●日 時：平成25年10月13日（日）11：30～15：00

●場 所：名古屋市北区安井四丁目 別小江神社境内および周辺

【別小江みこし会について】

地域の子どもたちに住んでいるまちに愛着を持ち続け、自慢できるふるさとを創ってあげたい、そんな思いを抱いた有志が「別小江みこし会」を結成し自治会や地域住民などを巻き込み、学区内にある神社を活用し、夏祭り、秋祭り、もちつき大会の行事を行っています。

「まちの子どもは地域で育てる」を目的に子供たちへ和太鼓・踊りを教える場を定期的に行い地域教育の場としています。

また、行事で使用する道具は住民による手作りで揃え、これらの準備にかかる時間は住民のコミュニケーションの場として役立っており、老若男女、多くの方が参加して楽しめる、そんなまちの活性化につながる精神を大切に活動しています。

【活動の視察】

秋祭り

10月13日（日）別小江みこし会 秋祭りの活動視察に行ってきました。
当日は青空が広がる秋晴れのまつり日和で、大勢の参加者が来場していました。

主催者、来賓のあいさつのあと、12時から地域の中学生～高校生による踊りが披露されました。



この踊りはメンバーの指導と振り付けによるもので、躍動感あふれるものでした。

続いて、小学生以下の子どもたちによる「お囃子隊」山車が地域を巡行し、笛や太鼓で祭りを盛り上げていました。

このお囃子の指導もメンバーにより行われており、地域の子ども達に受け継がれています。



14時20分からは、中学生～高校生による太鼓の演奏がありました。



太鼓の演奏はこの地域のお囃子隊を卒業した指導者による指導のもと、練習を重ねたもので大変迫力がありました。

お囃子隊に参加している小学生以下の子どもたちが、この太鼓や踊りに憧れて中学生になったら太鼓や踊りに参加していくという次のステップを用意し、子供たちを地域で育むという団体の取り組みが感じられました。

太鼓の演奏のあと、地域住民による男みこし・女みこしの巡行が行われました。休憩をはさみながら夜までみこしの巡行が行われます。



また、同じ頃、会場では夜の屋台販売などの準備が行われていました。
こちら支度から販売まで地域住民の手によって行われるという手作り感の溢れるものでした。



ゲームコーナーのサイコロは小さい子供でも投げられるようにフェルトとスポンジで作られています。射的の鉄砲は木で玉は輪ゴムです。これらは、すべて手作りです。

長時間のイベントですが、会場は常に多くの人で賑わっており、地域住民が伝統の祭りを活かし、このイベントを継続していくことで地域住民の絆を深め、まちを活性化していこうという思いが伝わってくるイベントでした。



おむすびの感想

祭り行事の会場では、屋台に的屋を入れず、自治会を中心とした地域の方が手作りで運営し、地域の顔がつながるように工夫されていました。また、お囃子隊の指導者も同じように子どもの頃から参加していた方だそうです。一見神社の祭り事と思われそうですが、催事を活用して、団体が中心となり、自治会や地域の住民と連携しながら地域のまちづくり活動として、工夫をされているようでした。

揃いの法被で、練習の成果を発表する場面では、団体のメンバーの方が感無量な表情をされていたのが印象的でした。

今後も、団体の活動を通じて、子どもから大人まで世代を超えて、コミュニケーションが広がりつながっていく地域として発展していくことを期待します。



ぴよんちゃんの感想

地域住民の男女別、世代別に役割があり、地域全体でまちを盛り上げようとする工夫が感じられました。

日本の伝統的な文化を取り入れ、小学生以下の子どもたちが、中学生以上の太鼓の演奏や踊りに憧れて大きくなったら自分も参加したいという道筋をつくり、卒業した社会人がその活動を見

守り指導をするという連続した世代間の交流と文化継承が行われていく形態は、まちづくりの大切な要素だと感じました。

メンバー全員が地域を盛り上げるイベントに係わり、地域住民を巻き込みながら楽しむという活動をこれからも発展させ継続してほしいと感じました。